

第91回日本整形外科学会 学術総会

(2018年5月24日神戸)

ご遺体 (Cadaver) を使った手術手技研修の実施についての説明会

「実践的な手術手技向上研修事業 に関する評価会議の立場から」



小林英司

慶応大学 医学部

日本外科学会 CST推進委員会 委員

厚生労働省「実践的な手術手技向上研修事業
に関する評価会議」 委員



Current state of surgical training using cadavers in Japan compared with Western countries

Eiji Kobayashi¹ · Jiro Nudeshima¹

Received: 16 March 2018 / Accepted: 27 April 2018

© Springer Nature Singapore Pte Ltd. 2018

Abstract

Surgical skill training using cadavers is important for surgeons to gain an understanding of anatomical approaches. However, the laws and guidelines stipulating surgical technique training using corpses differ in each country. We discuss the new guidelines and the current situation in Japan in comparison with that in Western Europe and the United States.

Keywords Cadaver · Surgical training · Japan

Table 1 Changes of cadaver surgical training reports in Japan in these 5 years

Year	2012	2013	2014	2015	2016	2017
Universities that received the Health and Labour Sciences Research Grants	In 2012, the “Guidelines for Cadaver Dissection in Education and Research of Clinical Medicine” was established	Total: 6 Sapporo Medical Univ. Tohoku Univ. Chiba Univ. Tokyo Medical Univ. Ehime Univ. Okayama Univ.	Total: 7 Sapporo Medical Univ. Tohoku Univ. Chiba Univ. Tokyo Medical Univ. Okayama Univ. Ehime Univ.	Total: 8 Tohoku Univ. Chiba Univ. Tokyo Medical Univ. Okayama Univ. Ehime Univ. Nagoya City Univ. Sapporo Medical Univ. Univ. of Occupational and Environmental Health	Total: 8 Tohoku Univ. Chiba Univ. Tokyo Medical Univ. Okayama Univ. Ehime Univ. Nagoya City Univ. Sapporo Medical Univ. Univ. of Occupational and Environmental Health	Total: 9 Hokkaido Univ. Tohoku Univ. Chiba Univ. Tokyo Medical Univ. Okayama Univ. Ehime Univ. Nagoya City Univ. Tokushima Univ. Univ. of Occupational and Environmental Health
Universities that reported details of CST operations to the Japan Surgical Society		Total: 5 Chiba Univ. Sapporo Medical Univ. Ehime Univ. Tokyo Medical Univ. Tohoku Univ.	Total: 6 Sapporo Medical Univ. Tohoku Univ. Chiba Univ. Tokyo Medical Univ. Okayama Univ. Aichi Medical Univ.	Total: 8 Tohoku Univ. Chiba Univ. Tokyo Medical Univ. Okayama Univ. Yokohama City Univ. Aichi Medical Univ. Tokushima Univ. Dokkyo Medical Univ.	Total: 11 Tohoku Univ. Chiba Univ. Tokyo Medical Univ. Okayama Univ. Ehime Univ. Nagoya City Univ. Nagoya Univ. Tokushima Univ. Iwate Medical Univ. Dokkyo Medical Univ. Aichi Medical Univ.	Total: 12 Yokohama City Univ. Fukushima Medical Univ. Nagoya Univ. Tokushima Univ. Okayama Univ. Tohoku Univ. Iwate Medical Univ. Chiba Univ. Hokkaido Univ. Ehime Univ. Tokyo Medical Univ. Dokkyo Medical Univ.

The core items of the guidelines

1. The dissection laboratories of medical departments as the point of contact for CST.
2. The requirement of a separate living consent specifically for surgical research, in addition to consent from an individual to donate their body for dissection.
3. Limiting those who participate in CST procedural training to physicians and dentists
4. Mandatory reporting of the operations performed to the committee established by the Japan Surgical Society.

(Kobayashi E & Nudesima J. Surgery Today 2018)

日本外科学会CST推進委員会への報告書の要点

臨床医学の教育及び研究における死体解剖 遺体による手術手技研修等の実施報告書

大学名・学部名 _____
 専門委員会名及び代表者名 _____ 代表者 _____
 報告者氏名 _____ ① 報告者所属・役職 _____

実施代表者 (臨床講座)	氏名 講座名及び役職	目的	1. 教育 a. 基本的な医療技術の習得 b. 基本的な手術手技、標準手術の習得 c. 高度な技術を要する手術手技の習得 2. 研究 a. 手術手技に関連する臨床解剖の研究 b. 新規の手術手技の研究開発 c. 医療機器等の研究開発
指導監督者 (解剖講座)	氏名 講座名及び役職		
研修等の名称	※セミナー等の概要を記したパンフレット		
目的	1. 教育 a. 基本的な医療技術の習得 b. 基本的な手術手技、標準手術 c. 高度な技術を要する手術手技 2. 研究 a. 手術手技に関連する臨床解剖 b. 新規の手術手技の研究開発 c. 医療機器等の研究開発		
実施日、期間、実施場所	年 月 日 ~ 年 月 日 実施時間 (: ~ :) 実施場所 ()		
実施回数と実施形態	計 回 1. 定期開催 2. 不定期		
参加人数と公募の有無、 学内・学外の別	合計 人 ※医師・歯科医師のみ 公募 1. 有 2. 無 学内医師・歯科医師 人 関連施設 人 学外(公募) 人		
見学者(医師・歯科医師以外、 人的支援を含む)の内訳	合計 人 ※医師・歯科医師以外の者が遺体による手術手技研修等を実施することは認められない 参加数 見学者の役割 見学目的 学生 人 () () コメディカル 人 () () 業者等 人 () ()		
ご遺体の数、固定方法 解剖部位	体 1. 固定(ホルマリン) 2. 未固定 1. 頭部 2. 頸部 3. 胸部 4. 腹部	参加人数と公募の有無、 学内・学外の別	合計 人 ※医師・歯科医師のみ 公募 1. 有 2. 無 学内医師・歯科医師 人 関連施設 人 学外(公募) 人
倫理委員会※への申請	課題名() 学内審査番号() ※倫理委員会への申請書と承認通知書の添付	見学者(医師・歯科医師以外、 人的支援を含む)の内訳	合計 人 ※医師・歯科医師以外の者が遺体による手術手技研修等を実施することは認められない 参加数 見学者の役割 見学目的 学生 人 () () コメディカル 人 () () 業者等 人 () ()
経費と利益相反状態	費用総額 円 (1、有の場合の参加費等の負担額: 大学からの補助 1、有 2、無 その他の補助・援助 1、有 2、無 利益相反状態※の有無 1、有 2、無 ※研究代表者あるいは指導監督者が、当該企業などからの研究費などとしての寄付金、 利益相反に関する報告書に「研究費」「講義料」「株」「役員・顧問職」「顧問料・謝礼金」 利益相反委員会※への申請 1、有 2、無 ※あるいは学内の相当する委員会		
ホームページ等への公開	1.有 (URL _____)		

実践的な手術手技向上研修事業に関する評価会議

(厚生労働省ホームページで見れます)

ホーム > 政策について > 審議会・研究会等 > 医政局が実施する検討会等 > 実践的な手術手技向上研修事業に関する評価会議

実践的な手術手技向上研修事業に関する評価会議

回数	開催日	議題等	議事録／議事要旨	資料等	開催案内
4	2017年3月1日 (平成29年3月1日)	1. 事業実施団体からの実績報告(プレゼンテーション) 2. 今後の課題等について	議事録	資料	—
3	2016年2月16日 (平成28年2月16日)	1. 事業実施団体からの実績報告(プレゼンテーション) 2. 今後の課題等について	議事録	資料	—
2	2015年2月6日 (平成27年2月6日)	1. 事業実施団体からの実績報告(プレゼンテーション) 2. 今後の課題等について	議事録	資料	—
1	2014年2月12日 (平成26年2月12日)	1. 事業実施団体からの実績報告(プレゼンテーション) 2. 今後の課題等について	議事録	資料	—

政策について

- [分野別の政策一覧](#)
- [組織別の政策一覧](#)
- [各種助成金・奨励金等の制度](#)
- [審議会・研究会等](#)
 - [審議会・研究会等開催予定一覧](#)
- [国会会議録](#)
- [予算および決算・税制の概要](#)
- [政策評価・独法評価](#)
- [厚生労働省政策会議](#)

[ページの先頭へ戻る](#)

国内でのカダバートレーニングの実施状況

2018年3月末現在

H24～ 厚労省予算事業 「実践的な手術手技向上研修事業」9大学

- ・実施実績が採択条件、全国6ブロックから採択
- ・平成29年度予算額は44,549千円、各施設の予算は7,429千円または1,857千円

- ・北海道大学 ・東北大学
- ・東京医科大学 ・千葉大学
- ・名古屋市立大学
- ・愛媛大学 ・岡山大学 ・徳島大学
- ・産業医大

独自に実施 7大学

- ・札幌医大 ・岩手医大 ・福島県立医大
- ・横浜市立大学 ・獨協医科大学
- ・名古屋大学 ・愛知医科大学



第196回国会 厚生労働委員会第3回 質疑項目:参議院

www.sangiin.go.jp/japanese/kaigi_joho/shitsugi/196/s069...0004.html



参議院 House of Councillors,
The National Diet of Japan

検索方法

検索

文字サイズの変更 標準 拡大 最大

サイトマップ

よくある質問

リンク集

English

▶ [トップページに戻る](#)

▶ [議員情報](#)

▶ [今国会情報](#)

▶ [ライブラリー](#)

▶ [議案情報](#)

▶ [会議録情報](#)

▶ [請願](#)

▶ [質問主意書](#)

▶ [参議院公報](#)

▶ [参議院のあらまし](#)

▶ [国会体験・見学](#)

▶ [国際関係](#)

▶ [調査室作成資料](#)

▶ [参議院審議中継](#)

[トップ](#) > [委員会・調査会・憲法審査会質疑項目](#)

委員会・調査会・憲法審査会質疑項目

[会議一覧へ戻る](#)

[厚生労働委員会の質疑項目へ戻る](#)

第196回国会 厚生労働委員会
平成30年3月23日（金） 第3回

1. 平成三十年度一般会計予算、平成三十年度特別会計予算、平成三十年度政府関係機関予算中、厚生労働省所管についての委嘱審査

【質疑者】

足立 信也 君（民進）
小林 正夫 君（民進）
倉林 明子 君（共産）
東 徹 君（維新）
福島 みずほ 君（希会）
栗師寺 みちよ 君（無ク）
石井 みどり 君（自民）
小川 克巳 君（自民）
伊藤 孝江 君（公明）

【主な質疑項目】

・ 日本年金機構の業務委託における事務処理不適切事案の内容



（日本外科学会ホームページより）

ここにして検索



海外におけるCSTの現状

	米国	英国	フランス
根拠法令	各州のAnatomical Gift Act 「研究または教育のため」	Human Tissue Act 2004 「人間の健康に関連した教育、 <u>トレーニング</u> または研究」と明記	地方自治体法 死後事務に関する行政令
	上記法令は献体の売買を禁止しておらず、ブローカーの介在する場合がある	CST特定の同意は求められない	CST特定の同意は求められていない
実施主体	各大学献体プログラム Willed Body Program	各大学 + 王立外科医師会 イングランドWolfson Surgical Skills Centre スコットランドClinical Anatomy Skills Centre	全国に28ある大学 献体センター
特記	研修医向けの実施が多く、教育効果を測った論文も出ている	遺体提供は限られる一方で、動物の代替えは厳しい。	生きた豚・遺体・シミュレーターを使った研修を組織的に実施施設あり

(2018年3月29日、武蔵境)

CSTガイドラインと今後の課題

1. 解剖学教室を窓口とすること
Anatomy **解剖学教室の負担をどうするか？**
2. 施行者は、
医師または歯科医師に限ること **学生、コメディカルの実施をどうするか？**
License
3. 実施内容
(経理を合わせ) を報告すること **企業参入による経費をどのようにするか？**
Transparency

(ワークショップにおける提案：小林)

第118回日本外科学会定期学術集会



(2018年4月7日、東京)

外科領域における献体使用の現状と展望

1. 新しく発生する負担をどうするか？
 - (1) 厚労省の予算化
 - (2) 臨床教室が協力
 - (3) 報告のURL化
2. 人材育成をどうするか？
 - (1) 教育者の育成
 - (2) 論文化による業績
3. 高度機器や企業参入は？
 - (1) 公益性の向上
 - (2) 貸出機器の共同運営

(ワークショップのまとめ：小林)

「実践的な手術手技向上研修事業申請」 に関する評価項目



(2018年5月24日、神戸)

- 1) 献体受付、遺体管理の体制
 - ・解剖学教室管理施設から出してはいけない
- 2) 研修の実施回数及び時期
 - ・医学生実習との兼ね合いを考慮
- 3) 研修の実施体制（専門委員会の設置、倫理委員会への諮問等）
 - ・臨床教育、研究に精通する人材の配置
- 4) 研修内容（プログラム、使用ご遺体数、参加者数、研修場所等）
 - ・献体の共同使用（頭部と腹部など）を参加する臨床科と考える
- 5) 研修の周知方法、受講者の募集方法・選定基準
 - ・専門性の高い実習では資格も考慮する
- 6) 当予算の支出内容
 - ・適正な参加費を徴収する
- 7) 「臨床医学の教育及び研究における死体解剖のガイドライン」の遵守
 - ・改定項目に注意

(事業申請説明会：小林)